

プレアヴィヒア ナチュラルプロジェクト

収穫、出荷順調



昨年8月からスタートしたキャットフィッシュプロジェクトも収穫、出荷が安定してきました。キャットフィッシュの育成に関してはまだまだ課題もありますが、これまで育成してきた魚は現地のヴィレッジ内のお客様やマーケットへの卸が順調に進んでいます。日本人が関わって育てているという事はカンボジア人の中でも安心感を持たれる要素の1つであり、噂が口コミでも広まり、別の州のフィッシュバイヤーからもオーダーをいただき数百kg単位で出荷をすることもあります。やはり、生き物なので成長のスピードや成長の限界値には個体差があり、すべての個体が基準となるサイズまで育成するのはなかなか難しいという事も実感しています。

現地スタッフも日々販売でヴィレッジ内を販売して回っており、認知度も高くなっています。ヴィレッジも広いので毎日同じ場所へ販売に行くことができないため、お客様の中には「販売に来るのを待ってたよ」と言ってくれる方も居り、貴重な経験をさせていただいています。今後も村人とのコミュニケーションをより深めていきたいと思っています。

編集後記

タライオンダイ

カンボジアではキャットフィッシュの事をタライオンダイと呼びます。「タライ」が魚という意味で、その後続く名前で魚を呼び分けます。カンボジアで食される魚は淡水魚が多く、現地の村人が好きな魚はキャットフィッシュの他にスネークヘッドフィッシュ(タライプトゥア)、パンガシウス(タライプラー)と以前育成していたレッドティラピアが人気です。ティラピアはそのままタライティラピアと呼ばれますが、黒と赤の2種類いるので、区別すると他に赤い魚がないという事からタライクロホームと呼ばれることが多いです。クロホームが赤色という意味です。

